

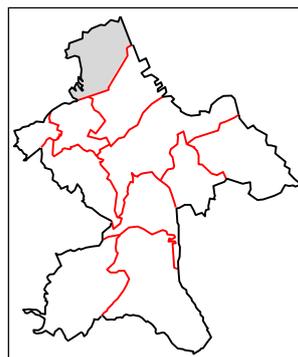
## 第7 地区別振興方向

市川地区、下長地区、上長地区、豊崎地区、館地区、是川地区、大館地区、南浜・美保野地区、旧市内、島守地区、中沢地区の11地区別に特性を生かした振興方向を次のとおりとします。

### 1. 市川地区

#### (1) 関係集落名

轟木、和野、高屋敷、赤畑尻引、桔梗野  
向谷地、浜市川、橋向、古場蔵



#### (2) 農業構造

##### ①農家

##### 農家数の推移

(単位：戸)

区分	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成22年	396	271	125
平成27年	304	203	101
令和2年	238	150	88

※1 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。

◇農林業センサスより

##### ②耕地面積

##### 耕地面積の推移

(単位：ha)

区分	総面積	田	畑
平成22年	744	584	160
平成27年	673	525	148
令和2年	658	512	146

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

### ③農業経営体

#### (a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	経営体数	1 ha未満	1 ha以上 2 ha未満	2 ha以上 3 ha未満	3 ha以上 5 ha未満	5 ha以上
平成22年	275	146	82	22	20	5
平成27年	207	105	62	21	11	8
令和2年	152	79	41	15	8	9

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

#### (b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	単一経営						複合経営
		稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他	
平成22年	248	175	26	1	1	1	6	38
平成27年	182	126	30	-	1	3	1	21
令和2年	148	103	18	-	1	2	-	24

◇農林業センサスより

#### (c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	50万円未満	50万円以上 300万円未満	300万円以上 500万円未満	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
平成22年	248	131	82	11	15	9
平成27年	182	84	58	16	14	10
令和2年	148	42	71	8	17	10

◇農林業センサスより

**(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移** (単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	248	115	95	14	15
平成 27 年	182	80	83	3	10
令和 2 年	148	36	74	8	29

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
1	2	6
-	1	5
-	-	1

◇農林業センサスより

**(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移** (単位：経営体数、ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	60	59	53	52	13	7
平成 27 年	51	110	44	107	11	3
令和 2 年	39	164	32	160	12	4

◇農林業センサスより

**(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移** (単位：経営体数、ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	37	15	16	8	23	7
平成 27 年	58	34	47	31	14	3
令和 2 年	21	10	18	8	4	2

◇農林業センサスより

**(3) 立地条件及び農業生産の特色**

市の北部に位置し、奥入瀬川及び五戸川流域に水田地帯が開けています。田が耕地面積の 8 割を占めており、夏期は太平洋から吹き付けるやませ(偏東風)の影響を受けやすい地域です。

水田転作によるいちご栽培や大豆栽培が行われています。

**(4) 主に生産されている農産物**

水稲、小麦、大豆、いちご

**(5) 振興方向**

水稲については、国の制度等を利用しながら、基盤整備を進め、基幹作物として生産を継続するとともに、転作田を有効活用した施設いちご、並びに、集団的に生産されている小麦や大豆を中心とする複合経営の確立を促進します。

また、小麦や大豆生産のさらなる集団化を促進するため、農地の流動化を図ります。

**(6) 振興する農産物**

水稲、小麦、大豆、いちご